

## C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese

イタリア通信 ㊶

\*地中海の向こう側 ~サミア・ユスフ・オマールの物語を読んで~\*

深草 真由子

Non dirmi che hai pauraという本がある。実話を基にした小説で、2014年度ストレーガ賞の最終選考まで残った秀作である。



【Non dirmi che hai paura】

主人公はサミア・ユスフ・オマール。かつてイタリアの植民地であったソマリアの首都モガディシュ

の貧しい家庭に生まれた彼女が、自分の才能に目覚める少女時代のエピソードからこの小説は始まる。走ること、誰よりも速く走ること。それがサミアの夢であり、コーチ役を務める幼なじみと共有する大きな目標であった。ソマリア出身でイギリスに移住した長距離ランナー、モハメド・ファラーがあこがれの存在。長引く内戦のために国は荒れ果てており、ふつうの暮らしもままならぬ環境であったが、家族に支えられ、サミアは自分の選んだ道を実行して行く。「わたしのおでこにタオル地のバンドをつけてくれた時のお父さんのしぐさと言葉を思い出していた。《いつの日かお前は、男たちが強制した奴隷状態から、ソマリアの女性を解放に導くだろう。お前が彼女らを引っ張って行くのだよ、わたしの小さな戦士よ》」(pp. 49-50)。自分が一番でゴールする姿を見せて、ソマリアの人びとを勇気づけることができれば。十歳の誕生日を迎えた日から、彼女はそんなことを願うようになった。そして地元の大会で順調に結果を残すようになる。

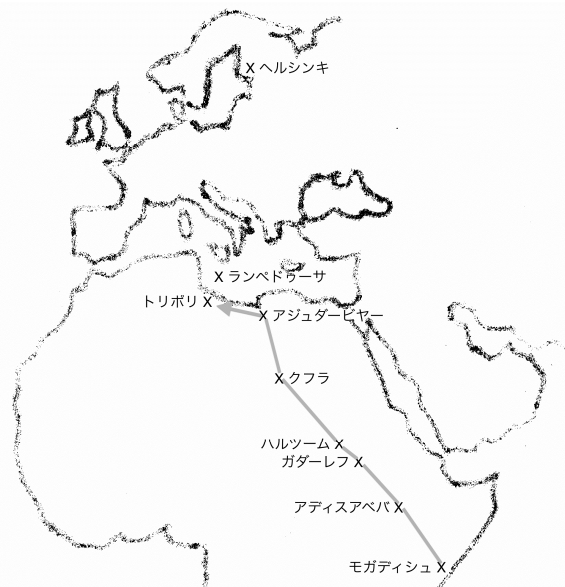
ところがイスラム過激派アル・シャバブが街を制圧するようになって、すべてが一変した。音楽と映画は禁止。男は短パン禁止。女は何もかも禁止。人目につかない時間と場所を選んで、長く重い黒ブルカに脚をとられそうになりながら、サミアは一人トレーニングを続ける。2008年8月、十七歳の彼女が挑んだ晴れの舞台、北京オリンピック。二百メートル走予選で他の選手より十秒も遅れてゴールしたが、観客から大きな拍手を受けた。しかし、世界中が注目するなかで手足を露出して走ったことで、ソマリアでの彼女の身はますます危うくなる。

次のオリンピックを目指して、思う存分練習できる場所と、勝利へ導いてくれる指導者を見つけたい。サミアはその一心でエチオピアのアディスアベバへ移り、そこからサハラ砂漠を越えてリビアのトリポリ、海の向こうのイタリア、そして姉の暮らすフィンランドまでの《旅 il Viaggio》を決心する。生きるため、生きていることの意味を確かめるための移住。2011年7月15日、ロンドンオリンピックまであと一年。

覚悟は決まった。荷物は小さなビニール袋に入る分だけ。両親の思い出の品を持って、サミアはジープの荷台に乗り込んだ。窒息しそうになりながら、気温が五十度にも達する炎天下の砂漠を運ばれていく。密航業者にとって難民は家畜のようなものだ。金がなければ殴られ、命令を聞かなければ殴られ、言い返そうとすれば殴られ、飲み水を要求すると殴られる。「わたしたちはそのとき初めて畜生呼ばわりされた。砂漠に入る時、人間をやめる。アディスアベバでもすでにtahrib(アラビア語で「逃亡者」の意味)だったけど、今では逃げ場のないtahribになってしまっていた。わたしはひ弱で非合法的な存在。命をつなぐ糸がどんどん細くなってゆく、一匹の動物だった」(p. 185)。サミアは刺繍工場で働いて貯めたお金と、ヘルシンキにいる姉に工面してもらった分を密航業者に払って、何度もだまされながら、やっとの思いでトリポリに到着する。2011年12月15日。もう一生砂漠を見なくてよいという安心感、大好きな海がすぐそこにあるという解放感。

「ここトリポリで三ヶ月のあいだ、警察に捕まるのが心配でほとんど外出できないから、みんなと話し込んでいる。武力衝突があった時と独裁者カダフィーが死んだ直後、2011年の終わり頃は、状況はわりと落ち着いていた。政府がない時は法もない。法がない時は、わたしたちtahribもtahribじゃない。その時は誰もわたしたちのことを探さなかったし、誰もわたしたちのことなんて考えなかった。密航業者は仕事を干され、イタリアへの旅費も安かった。でも今はもう秩序が戻ってきた。しかも前より厳しい秩序が。もし路上で見つければ、即サハラに送り返されるとみんな言っている」(pp. 215-6)。身を潜めつつ待ちに待ち、そしてついにやってきた出発の日。潮風の中にすでにイタリア

の香り、自由の香りが混ざっているように感じられ、サミアの心の中で期待がどンドンふくらむ。ところが、不幸なことに、彼女の乗った船は海の真ん中で故障し、動かなくなってしまった。通りかかったイタリアの船によって発見されたものの、イタリアに連れて行ってもらえそうでもない。どうやら船長は警察に通報しているようだ。そうするとトリポリに引き返され、下手すればまた刑務所送りだ。それは困る。何人かがイタリア船めがけて海に飛び込んだ。ヴェールを何重にもまとった女性もが。泳いでいるつもりなのか、水中で体を激しく動かしている。そして何らかの力に押されるようにして、サミアも...。2012年4月2日、二十一歳になったばかりだった。



【サミアの通過したルート】

彼女だけではない。たくさんの人々の夢、それもごくさやかな夢が地中海の底に沈んで消えていったのを、わたしたちはこれまでに何度も何度も目にしてきた。そのたびに政治家は哀悼の意を表し、人びとはSNS上で情報をシェアするが、数日後には何事もなかったかのように、次の話題に移るのだ。慣れ、なのだろうか。

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)のレポートによれば、2015年の1月から6月までの半年間に地中海を渡った人びとの数は137,000にのぼり、そのおよそ半数がギリシャに、もう半数がイタリアに上陸している。彼らの主な国籍はシリア、アフガニスタン、エリトリア、ソマリア。戦争や迫害から逃れ

てきた人たちである。一方、海難事故の犠牲者は1,867人。昨年の秋まではイタリア海軍がMare Nostrumというオペレーションを展開し、人命救助に成果を上げていた。だがリビア沖までを広くカバーしていたこの作戦は、他のヨーロッパ諸国から逆効果だと批判されていた。リビアの領海を出さずれば、イタリア当局によって保護されるので、難民を送り出す業者にとって好都合な状況を生んでいたからである。現在は国境警備を目的とするOperazione TritonがEUの主導で展開されており、パトロール船がイタリア沖から三十マイルの範囲を巡回し、必要があれば難民の救助や捜索も行っている。しかしAbbate記者の記事が明かしているように、密航業者は難民船を意図的に転覆させているというショッキングな証言も出てきた。そうすることによってヨーロッパの世論を揺すぶる、パトロールの範囲をリビア沖近くにまで拡大させるために、である。ともあれ、どんな危険が待ち受けていると、追い込まれた難民たちに出発を躊躇する余地などない。それはサミアも同じだった。「あまりに悲しくて、恐怖を感じなかった。怖がるなんて、ぜいたくよ」(p. 160)。



【ボートピープルの惨状を伝えるイタリアの雑誌】

[参考文献]

Giuseppe Catozzella, *Non dirmi che hai paura*, Universale Economica Feltrinelli, 2015.

UNHCR (The UN Refugee Agency), *La via del mare verso l'Europa. Il passaggio del Mediterraneo nell'era dei rifugiati*, 1 luglio 2015.

Lirio Abbate, "La loro morte è un affare", in <<L'Espresso>>, N.22 anno LXI, 4 giugno 2015.

(元当館スタッフ)

～会館だより～

翻訳コンクールのご案内

10月19日から25日に開催予定の「第15回世界イタリア語週間」XV Settimana della Lingua Italiana nel mondoの催事の一环として、イタリア語翻訳コンクールが開催されます。日頃のイタリア語の学習成果を発表する場でもありますので、翻訳にご興味をお持ちの方はこの機会に是非ご応募ください。

記

1. 対象:  
大学その他でイタリア語を学習するグループ  
(当館受講生グループも可)
2. 翻訳対象作品:  
本年度ストレーガ賞の最終選考に残った12作品の指定された冒頭部分(約2ページ)
3. 主催および問い合わせ先:  
イタリア文化会館—大阪  
電話: 06-6229-0066  
E-mail: info@iicosaka@esteri.it
4. 締切:  
平成27年9月25日
5. その他:  
本コンクールは順位づけするものではありません。期限内に提出された作品は全て電子ブックに収録されますので、翻訳者としての実績につながるものをご理解ください。

ご応募ご希望の方は、日本イタリア会館京都本校または大阪梅田校の事務局までご連絡ください。

## ミラノ万博だより②

志賀 真奈

ミラノ国際博覧会（以下ミラノ博）は、2015年5月1日から10月31日までの184日間、ミラノ北西部のRho Fieraと呼ばれるエリアで開催されています。

Rho Fieraでは毎年各種の見本市が行われており、その区域に新しくミラノ博用の会場が建設されました。



【アメリカ館の外観】

会場の広さは約110万㎡で、その中を十字に走るメインの大通りが2つあります。この構造は、古代ローマの都市からインスピレーションを得ており、2つの大通りは「カルド（南北の道という意味）」「デクマーノ（東西の道）」と名付けられました。会場内には小川が流れ、多くの樹

木や草花も植えられており、ひとつの「島」の様な雰囲気醸し出しています。

会場へのアクセスも新たに整えられ、Trenitalia（イタリアの鉄道会社）はRho Fiera Expo Milano 2015 駅を新たに建設しました。市内中心部から、約30分で会場に到着することができます。



【ミラノ博のシンボルタワー Albero della vita】

参加国は145ヶ国と過去最多で、期間中は2000万人の来場者が見込まれています。

ここ最近の国際博覧会は、2005年の日本：愛知県・2010年の中国：上海と2回連続アジアで開催されており、2015年については事実上アジア以外での開催が前以って決定していました。

2008年3月末に行われた国際博覧会事務局総会での投票で、トルコ・イズミルを破り、ミラノが開催地に決定しました。1906年以来109年ぶりとなるミラノでの開催に、国民の期待も非常に高まっていたのですが、会場建設などに巨額の資金が投じられ汚職事件も発覚してしまうという、何ともイタリアらしい残念な事態が起きてしまいました。工事も遅延を極め、一部では開幕を危ぶむ声も上がっていましたが、何とか5月1日の開幕日を迎え、祝賀ムードに包まれたのも束の間、この日はミラノ中心地で反対派による破壊行為や放火事件などが起こってしまい、大きなニュースとなりました。

市内を歩くと、今でも「No Expo」等の落書きがたくさん見られますが、開幕日の暴動以降は目立った混乱もなく、順調に入場者を増やして



います。イタリア人に次いで、フランス人・ドイツ人のゲストが多く、日本人のゲストもたくさん見かけられます。ヨーロッパのみならず、世界各国からも注目を集めるイベントとなっている様です。

今回のミラノ博のテーマは、「Feeding the Planet, Energy for Life (地球に食料を、生命にエネルギーを)」。史上初の、「食」について考える国際博覧会となっています。

参加国がそれぞれのパヴィリオンを持ち、工夫を凝らした展示をする中で、食生活に関する地球規模の課題の提示をし、その解決策を模索しています。

各国パヴィリオンの中でも最大規模の広さを誇る日本館は、「Harmonious Diversity –共存する多様性–」を出展テーマとし、四季に根差した日本食・日本食文化を紹介しています。日本特有の文化に根づく知恵と技による、課題解決への貢献と未来の共生社会の開拓をメインメッセージとしています。また、いただきます・ごちそうさま・もったいない・おすそわけ、という言葉もキーワードとなっています。

日本館内には 9 つの展示エリアがあります。「プロローグ」と名付けられたエントランスは、1 つの絵巻物の様に見立てられており、日本の四季をめぐる物語「雨の一生」を紹介しています。

続いて、「ハーモニー」という、壁に設置されたハーフ・ミラーと最新のプロジェクター演出がとても美しい、幻想的な空間があります。四季折々の農村風景を映し出し、日本の気候と地理条件を生かした水田の映像を楽しむことができます。来館者の方々が、思わず「美しい！」と声を漏らす、日本館の中でも大変人気のエリアです。

次の「ダイバーシティ」という部屋では、スマートフォンの日本館アプリを使う事で、日本の食卓を楽しく知る事ができる仕組みになっています。滝をイメージしたスクリーンを流れ落ちる画像に触れる事で、その画像が自動的にスマートフォンに保存され、退館後も関連情報と共に楽しむ事ができます。

その他にも、音と香りで季節感を演出する押し花掛軸・日本の伝統的な祭事を紹介するショーウィンドー・数々のお寿司の模型・日本各地の匠達によって作られた和食器を新進気鋭のアーティストがトータルにデザインプロデュースした展示等があり、いずれも人気のカメラスポットになっています。

また、愛知万博のマスコットキャラクターだったモリゾーとキッコロが、現代の地球上の食と環境課題への解決策を提示する「イノベーション」というエリアもあります。

日本館の締めくくりは、「フューチャーレストラン」という、レストラン形式のシアターで行われるメインショーです。ダイニングテーブル風の客席に着席して、ショーを観賞します。テーブル上には、最新技術が駆使されたタッチスクリーンが設置されており、ゲストは日本のお箸を使いながらスクリーンに触れ、ショーに参加する事ができます。

食卓から始まる人と人の絆と、食に関わる全ての人・自然の恵みに対する感謝の気持ちを体感し、日本館の展示はフィナーレを迎えます。



【日本館の展示風景】

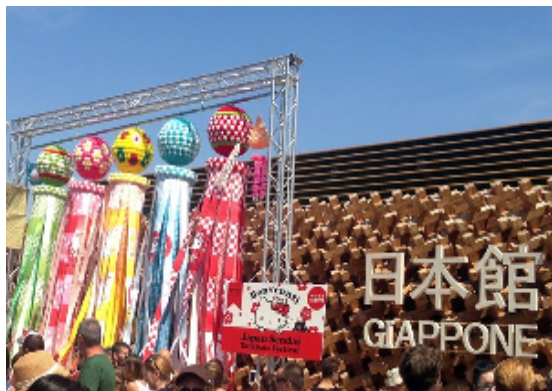
各参加国には、会期の内1日だけ、自国に焦点を当てたナショナルデーが割り当てられます。7月11日は、日本の「ジャパンデー」でした。

メインイベントとして、東日本大震災からの復興をテーマにしたパレードが行われ、東北各県の伝統的な踊りがデクマーノ大通りで披露されました。また、日本全国のJA（全国農業協同

組合連合会) 会員が作った、折り鶴約20万羽が日本館来館者に配られました。折り鶴の羽の部分には、「感謝」「ありがとう」などのメッセージが書かれており、大震災への世界各国からの支援に対する感謝の気持ちが込められています。

夜のイベントコンサートでは、きゃりーぱみゅぱみゅさんや三味線の吉田兄弟による演奏、書家の紫舟さんによる書と和太鼓を融合させたパフォーマンスが披露されました。日本の「カワイイ文化」の代表的存在として海外の若者にも高い支持を集めるきゃりーぱみゅぱみゅさんが登場した際は、イタリア人のお客様から大きな歓声が上がっていました。

「ジャパンデー」の一日を通して、日本の様々な文化を伝え、新たに興味を持った方々も多かった事でしょう。



【ジャパンデーの日本館】

ミラノ博は、「食」を通じて世界各国の人々が笑顔で繋がる事ができるイベントで、その国特有の文化や価値観・人間性も知る事ができます。開幕から約3ヶ月が経ち、ちょうど会期の半分か過ぎましたが、今後も益々入場者は増えていくと思われまます。閉幕に向けて更なる盛り上がりを見せながら、日本の素晴らしい食文化への認識が世界の人々に広まっていく事を願います。

(元当館スタッフ)

## Italiana SAGRA イタリアーナ サグラ

歴史ある京都の先斗町で、鴨川を見ながら上質な素材を味わう最高のひとときをお過ごしいただけるイタリア料理店です。イタリアで5年間修業したシェフが伝統料理をベースに新鮮な食材を使い「現代のイタリア料理」をお楽しみ頂けます。

特典(日本イタリア会館会員証お持ちの方)  
スパークリングワイン 1杯サービス(期間 掲載から1か月間)

住所: 京都市中京区先斗町通四条上ル鍋屋町  
232-10

電話: 075-212-1555

HP: <http://www.italiana-sagra.com>



編集・発行 / (公財) 日本イタリア会館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町4

TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357

E-mail: [centro@italiakaikan.jp](mailto:centro@italiakaikan.jp)

URL: <http://italiakaikan.jp/>